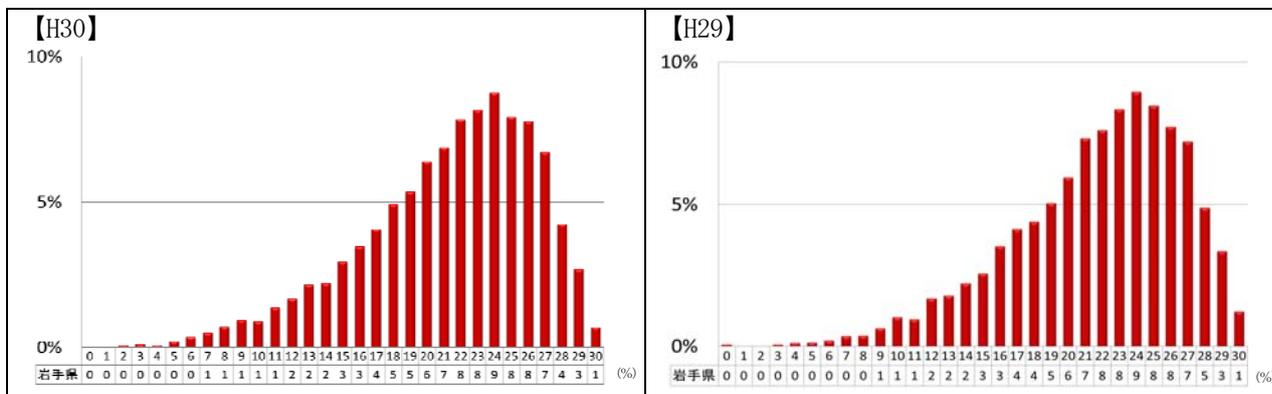


授業改善の手引 小学校第5学年社会

1 調査結果

(1) 分布状況



○ 問題数は昨年度と同じで、正答数の最頻値は24問、平均正答数は22問です。昨年度の分布と比較して、山の位置や形はあまり変わっていません。
(正答数の最頻値：該当する児童数の最も多い正答数)

(2) 領域等の正答率 (正答率の () の数字は平成29年度のもの、〈 〉の数字は平成28年度のもの)

領域等	正答率	観点	正答率
身近な地域や市 (2問)	(79)	社会的な思考・判断・表現 (10問)	71% (65) (63)
地域の人々の販売 (3問)	89% (88)	観察・資料活用の技能 (11問)	72% (76) (71)
地域の人々の生活の変化や願い (2問)	(90)	社会的な事象についての知識・理解 (9問)	68% (76) (76)
地域社会における災害・事故の防止 (5問)	64% (81)	活用 (4問)	58% (69) (51)
飲料水の確保や廃棄物の処理 (4問)	(61)		
県の様子 (4問)	77% (77) (73)		
我が国の国土の自然 (5問)	(55)		(56)
我が国の農業や水産業 (5問)	62% (66)		(59)

(3) 結果概要

- 「社会的な思考・判断・表現」の正答率は、昨年度の正答率を6ポイント上回っています。特に、農業の作業効率を高める工夫や努力について資料を選択する問題で改善が見られました。
- 「観察・資料活用の技能」「社会的な事象についての知識・理解」については、昨年度の正答率を4～8ポイント下回っています。特に、日本の領土の広がりに関する問題で課題が見られました。
- 活用に関する問題(通し番号5, 20, 28, 30)の正答率は58%です。特に、農業について資料をもとに考え、説明する問題で課題が見られました。

(4) 経年比較問題の状況 (○改善, ◇改善傾向, ●課題が継続, ▲は前回調査との比較マイナスを表す)

通し番号	正答率	比較	出題のねらい(内容)	H29 比較問題 No
○1	96	16	地図記号の理解をみる問題	1
○2	75	▲4	学校の周りの様子について、方位の知識をもとに地図を読み取る問題	2
○6	95	▲1	道具と暮らしの変化について、古い順に並べる問題	6
◇8	69	▲22	交通事故への対処について、警察署と関係機関の連携を資料から読み取る問題	11
○17	86	▲4	47都道府県の名称と位置の理解をみる問題	17
○18	77	1	等高線についての理解をもとに、地形のようすを読み取る問題	18
◇20	61	4	岩手県の交通網のようすについて、複数資料を関連付けて考え、説明する問題	20
◇25	61	31	国土の気候の概要の理解をもとに、気温と降水量のグラフを読み取る問題	25
○27	84	5	農業の生産効率を高める工夫や努力について考える問題	29

(5) 小問別正答率

問題番号				調査問題のねらい	学習指導要領との関連	主な観点	備考	正答率	選 択 No. (%)						
大問	中問	小問	通番号						1	2	3	4	5	6	0
									選択	選択	選択	選択	誤答	正答	無解答
1	(1)	1		主な地図記号を理解している。	3・4年(1)ア	知	経年	96	1	0	96	1	1		
	(2)	2		学校の周りの様子について、方位の知識をもとに、地図を読み取ることができる。	3・4年(1)ア	技	経年	75	3	13	7	75			
2	(1)	①	3	店にみられる便利さの工夫について読み取ることができる。	3・4年(2)イ	技		91	3	2	91	2	2		
	(1)	②	4	スーパーマーケットにみられる便利さの工夫について、資料をもとに考えることができる。	3・4年(2)イ	思		95	1	95	2	1			
	(2)	5		店にみられる工夫や目的について、資料をもとに考え、説明することができる。	3・4年(2)イ	思	活用	75					23	75	2
3	(1)	6		暮らしにかかわる道具と、それらを使っていたころの暮らしの変化を理解している。	3・4年(5)ア	知	経年	95	1	1	2	95			
	(2)	7		暮らしにかかわる道具と、それらを使っていたころの暮らしの変化について考えることができる。	3・4年(5)ア	思		93					6	93	1
4	(1)	8		交通事故発生時の関係諸機関の連携を示す図を読み取ることができる。	3・4年(4)イ	技	経年	69	14	69	11	5	1		1
	(2)	9		交通事故に関する資料から事故の原因について読み取ることができる。	3・4年(4)ア	技		70					27	70	3
	(3)	10		交通事故を防ぐための設備について考えることができる。	3・4年(4)ア	思		41	41	39	15	4	1		
	(4)	①	11	学校で火災に対する備えが行われていることについて考えることができる。	3・4年(4)ア	思		75	9	3	11	75			
(4)	②	12		火災に対する学校の設備を理解している。	3・4年(4)ア	知		52					37	52	11
5	(1)	13		廃棄物の処理の仕方について資料を読み取ることができる。	3・4年(3)イ	技		84	3	84	8	3	1		1
	(2)	14		廃棄物を資源として活用する取り組みについて、資料を読み取って、考えることができる。	3・4年(3)イ	思		90	2	3	90	3			1
	(3)	15		飲料水の使用量と人口の移り変わりに関する資料を読み取ることができる。	3・4年(3)ア	技		59	59	18	8	13			1
	(4)	16		下水を処理浄化する施設について理解している。	3・4年(3)イ	知		33	2	4	59	33	1		1
6	(1)	17		47都道府県の名称と位置を理解している。	3・4年(6)ア	知	経年	86	2	86	9	1			1
	(2)	18		等高線についての理解をもとに、地形の様子を読み取ることができる。	3・4年(6)イ	技	経年	77	8	10	77	3			1
	(3)	19		岩手県の土地の様子に関する資料を読み取ることができる。	3・4年(6)イ	技		84	3	3	9	84			1
	(4)	20		岩手県の交通網の様子を、地形や人口と関連付けて考え、説明することができる。	3・4年(6)イ	思	活用 経年	61					30	61	8
7	(1)	①	21	世界の主な大陸を理解している。	5年(1)ア	知		72					21	72	7
	(1)	②	22	主な国の名称を理解している。	5年(1)ア	知		70	18	3	6	70	1		1
	(1)	③	23	日本の領土の広がりを理解している。	5年(1)ア	知		50	50	32	9	6	2		1
	(2)	①	24	日本の国土の地形を理解している。	5年(1)イ	知		61	11	8	17	61	1		2
	(2)	②	25	国土の気候の概要についての理解をもとに、気温と降水量のグラフを読み取ることができる。	5年(1)イ	技	経年	61	12	11	13	61	1		1
8	(1)	26		稲作に従事する人々が、地形や気候などの自然環境を生かして生産の効率を高めるための工夫や努力をしていることを資料から読み取ることができる。	5年(2)ウ	技		55	5	55	19	17	1		3
	(1)	①	27	稲作に従事する人々が、生産の効率を高めるための工夫や努力をしていることについて、考えることができる。	5年(2)ウ	思	経年	84	84	6	2	6	0	0	3
	(2)	②	28	稲作に従事する人々による、米の味や生産の効率を高めるための工夫について、資料をもとに考え、説明することができる。	5年(2)ウ	思	活用	43					47	43	10
	(2)	③	29	稲作に従事する人々による、米の味や生産の効率を高めるための工夫について資料を読み取ることができる。	5年(2)ウ	技		71					25	71	4
	(3)	30		農業の問題点について、資料をもとに考えることができる。	5年(2)ウ	思	活用	54	11	16	54	1	1		1
全体正答率								71							

※整数値で表示のため、合計が100にならない場合があります。

2 指導のポイント

(1) 「凡例」等をもとに、資料を丁寧に読み取らせたり、発問や資料の提示を工夫したりしましょう。

ア 問題例とその概要【6】(4)・通し番号 20】(経年比較・活用問題)

〔問題文〕

あゆみさんたちは、岩手県の交通の様子について調べました。次の資料ア～ウを読み取って、高速道路や鉄道がどのようなところを通っているのか、「土地」「人口」という言葉を使って書きましょう。

(社会的な思考・判断・表現)

資料ア 岩手県的主要な交通の様子

資料イ 岩手県の土地の様子

資料ウ 岩手県の人口の様子

《正答例》 土地が低くて、人口の多いところを通っている。

《解答状況》 【正答率】61% 無解答率：8%

《誤答分析》

誤答例として多く見られたのは、資料イのみから分かること、資料ウのみから分かることというように、個々の資料から分かることのみを記述しているものや、資料アで読み取ったこととともに、資料イ・ウと関連付けて(重ね合わせて)読み取れていないものでした。

イ 指導上の留意点

複数資料を関連付けて考える力を身に付けさせるためには、まず、1つの資料を正しく読み取る技能を育てることが大切です。そのために、教科書の凡例を活用し、資料の表題、単位、目盛り、変化などの読み取り方を学ぶこと、個々やグループで資料を丁寧に読み取らせること、黒板の拡大資料をもとに読み取ったことを全体で伝え合ったり、検討したりする活動を大切にしましょう。また、複数資料を関連付けて考えさせる際には、「～と～を重ねるとどのようなことがわかりますか。」「3つの資料をまとめるとどのようなことがわかりますか。」などの発問を投げかけたり、透明シートで作成した資料を重ね合わせたりICTを活用したりするなど、資料提示を工夫しましょう。このような学習活動や手立てを大切に、複数資料を関連付けて読み取ったり、そこから分かったことを説明したりする力を育みましょう。

(2) 地図帳や地球儀を積極的に使用し、体験的に理解を深めていきましょう。

ア 問題例とその概要【7】(1)③・通し番号 23】

〔問題文〕

地図中のウ、エの島名の組み合わせとして正しいものを、次の1～4から1つ選び、その番号を書きましょう。

- 1 ウー択捉島 エー南鳥島
- 2 ウー択捉島 エー与那国島
- 3 ウー沖ノ鳥島 エー与那国島
- 4 ウー沖ノ鳥島 エー南鳥島

(社会的事象についての知識・理解)

《解答状況》 選択肢 1 :【正答率】50% 選択肢 2 :32% 選択肢 3 :9% 選択肢 4 :6% 無解答率：1%

《誤答分析》

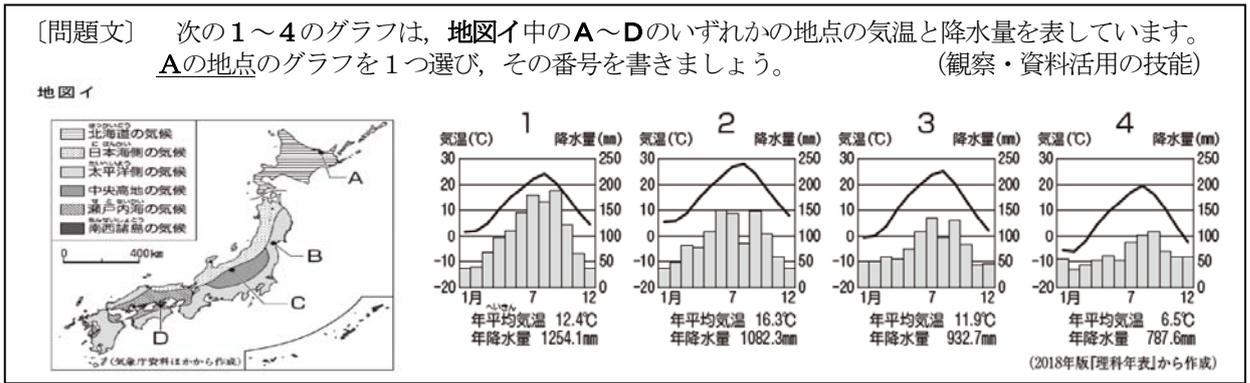
日本の領土の広がりについての問題でしたが、日本の東の端を与那国島と誤って解答した児童が多く見られました。このことから、日本領土の大まかな範囲や東西南北の端の島の名称について、繰り返し触れる機会が少ないことが原因と考えられます。

イ 指導上の留意点

地図帳や地球儀については、凡例をもとに使い方を学んだり、授業の中で積極的に使用したりすることを大切にしましょう。日本の領土に関わる学習では、距離や地名等を暗記させるような活動ではなく、近隣諸国と我が国との位置関係を、個々やグループ、学級全体で地図帳や地球儀を使いながら、体験的に追究する活動を大切にしましょう。

(3) 資料の見方や読み取り方を意図的・計画的に指導しましょう。

ア 問題例とその概要【7】(2)②・通し番号 25】(経年比較問題)



《解答状況》 選択肢4:【正答率】61% 選択肢1:12% 選択肢2:11% 選択肢3:13% 無解答率:1%

《誤答分析》

児童の誤った選択肢は、ほぼ同数でした。誤答を選択した児童は、各地域の気温に着目していないことや各地域の気温や降水量の特色を十分に理解していないことが原因であると考えられます。

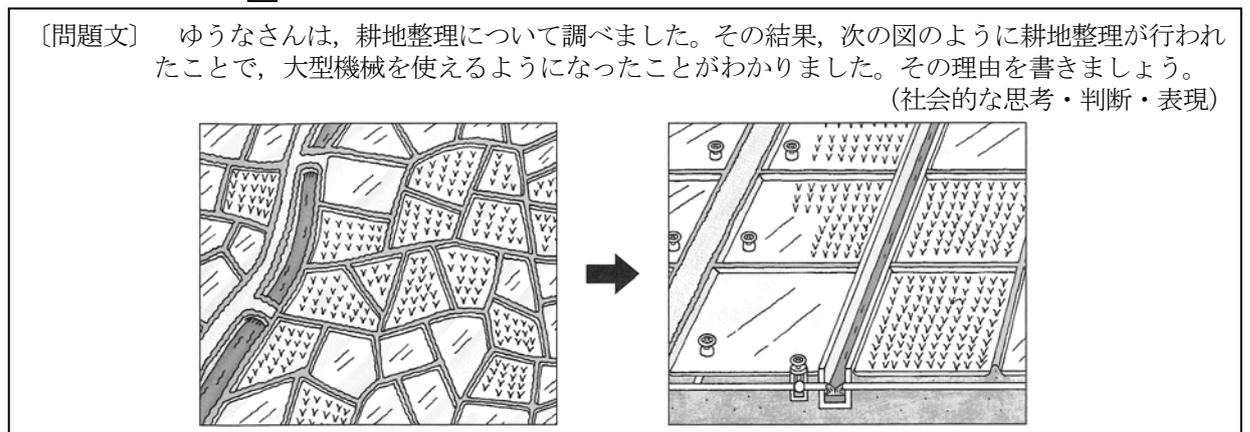
イ 指導上の留意点

国土の気候の概要については、国土の北と南、太平洋側と日本海側では気候が異なることなどを、教科書、地図帳等を活用して調べ、白地図にまとめるなどの作業的な学習を通して理解させることが重要です。その際には、それぞれの地域の気候の特色を、日本の気候の違いが分かる地図と各地域の雨温図とを関連させて理解できるようにすることも大切です。

資料の特徴に合わせて必要な情報を読み取る技能を、意図的・計画的に指導していきましょう。

(4) 学習問題について、児童が社会的な見方・考え方を働かせながら学習を進めていくことを大切にしましょう。

ア 問題例とその概要【8】(2)②・通し番号 28】(活用問題)



《正答例》 1つ1つの田の形が整えられて、面積が広がったため。

《解答状況》 【正答率】43% 無解答率:10%

《誤答分析》

誤答例については、「水田の形が整えられた」、「面積が広がった」のどちらかのみを解答している児童が多く見受けられました。「形がきれいになった」、「形が変わった」と解答する児童も多かったです。また、無解答児童も多く見られました。「どうすればお米をたくさん収穫できるのか(大量収穫)」、「どうすればお米を効率よく収穫できるのか(効率化)」などの考える視点、つまり「社会的な見方・考え方が曖昧なままに、「耕地整理」前後の様子を単純に比較して、解答していることが原因であると考えられます。

イ 指導上の留意点

社会的な見方・考え方を働かせるような発問を意識しましょう。教科書にある南魚沼市の「地形」と「土地利用」の関係や、耕地整理を進めた「背景」に着目するような発問を行うなど、「なぜ」、「どのように」、「どうすれば」と考え続ける学習を進めましょう。学習の中では、根拠を持って説明する場面(グループ・全体)を設定したり、考えたことを自分の力で文章にまとめる活動を取り入れたりしましょう。